

～ 健口と輝く笑顔のために～

歯科衛生だより 会報

2023 June vol. **75**
 発行人／吉田 直美 発行／公益社団法人 日本歯科衛生士会 〒169-0072 東京都新宿区大久保2-11-19
 TEL.03(3209)8020 FAX.03(3209)8023 <https://www.jdha.or.jp/>

都道府県歯科衛生士会会長会 オンラインで開催

令和5年2月11日(土)日本歯科衛生士会会議室を本部とし、「令和4年度都道府県歯科衛生士会会長会」が開催された。出席者69名(都道府県会会長48名(傍聴者1名含む)、関係者(役員)21名)であった。

吉田直美会長より冒頭に挨拶があった。コロナ禍はいまだ教育現場へ影響を与えており、新人研修の充実や離職防止対策はさらに重要な意味を持つため、引き続き指導者の養成、研修活動の強化を予定している。また、社会構造の急激な変化は、歯科衛生士に従来の域を越えた役割の増大をもたらし、様々な場で期待される職種となっている。より多くの歯科衛生士が専門性を十二分に発揮できるようになるために本会における制度の再構築・研修の充実が望まれる。歯科衛生士の専門性や質の担保は、職能団体における研修によって認められる。専門歯科衛生士制度検討プロジェクトにより、今後、日本歯科衛生学会の中で3つの専門領域別研究集会が企画されており、その成果に期待したい。さらに

国際交流、特にアジア圏での歯科衛生士の連携強化も重要な課題である。最重要課題である会員拡大とともに、皆様にご協力をお願いしたいとした。

協議事項は、①令和5年度事業計画(案)の概要について ②令和5年度の生涯研修・認定研修について ③都道府県歯科衛生士会への研修支援について ④令和5年度「ブロック連絡協議会」および「ブロック研修」実施要項について ⑤「歯科衛生士復職支援・離職防止等研修指導者養成研修事業」について、各担当理事から説明があった。報告事項は、①令和3年度「地域歯科保健活動実施状況報告」(詳細は本誌74号参照) ②会員拡大・組織強化の取り組みについて(公式Instagramの紹介など) ③その他、学生会員入会方法など追加報告がなされた。その後、規模別・ブロック別分科会が開催され、都道府県会の連携を深め、閉会した。



吉田 直美 会長

歯科衛生推進フォーラム オンライン開催

令和5年2月12日(日)、令和4年度の歯科衛生推進フォーラムが開催された。昨年と異なり、会長会とは別日に開催され、参加者は157名であった。

はじめに吉田直美会長より、歯科衛生士としての専門性を高め、多職種から期待される役割を担い、取り組むことができる歯科衛生士を目指して、本フォーラムで、共に学び、連携して歯科衛生士の活動の場を広げるきっかけになることを祈念しているとの挨拶があった。続いて来賓の厚生労働省医政局 歯科保健課 課長補佐 大坪真実氏から、挨拶の後、「歯科保健医療の動向」についてご講演いただいた。平成元年、「8020運動」が提唱され、適切な歯科保健活動が行われた結果、平成28年歯科


 厚生労働省医政局
 歯科保健課 課長補佐
 大坪 真実 氏

疾患実態調査では、80歳(75～84歳)で、自分の歯が20本以上ある達成者の割合が50%以上になっている。「経済財政運営と改革の基本方針2022(骨太の方針2022)」では、科学的な根拠の集積と国民への情報提供、生涯を通じた歯科健診(いわゆる国民皆歯科健診)の具体的な検討、関係職種や機関との連携、人材確保、歯科領域のICTの活用などを推進し、歯科医療体制の構築と強化に取り組むなどが令和4年6月7日に

閣議決定された。治療中心型から、地域包括ケアシステムで医科・介護と連携を図り、「治療・管理・連携型」へ変化し、「歯の形態回復」から、話す・食べる「口腔機能の維持・回復」にシフトしていくため、歯科衛生士のさらなる活躍への期待と人材確保の重要性について述べられた。

次に、地域歯科衛生活動の事業報告が行われた。青森県歯科衛生士会 監事 浅木美智子氏から「保育園、幼稚園の保護者に対する歯科保健アンケート調査事業及び保育園児・幼稚園児の歯科保健に関する普及啓発事業」(歯科衛生だより69号掲載)、岩手県歯科衛生士会 理事 冨手由歌里氏から「(令和4年度)子どもの食べる力を育む口腔機能向上普及啓発事業」、兵庫県歯科衛生士会 地域保健企画 理事の森田好美氏から「お口の健康で命を守る 非常時にいかす『わたしの健口手帳』の作成」(歯科衛生だより74号掲載)、徳島県歯科衛生士会 会長 河野美枝子氏から「新人歯科衛生士の離職防止・復職支援事業の取り組みについて」(歯科衛生だより67号掲載)が報告された。いまだに活動が制限される中で、各県では積極的な活動が行われ、理解を深める質疑応答の後、閉会となった。



司会 茂木 美保 副会長

令和5年度 認定歯科衛生士セミナープログラム

生活習慣病予防 (特定保健指導-食生活改善指導担当者研修)コース

日 程 9月1日(金)～10月18日(水) オンデマンド配信
10月21日(土) ライブ配信
10月22日(日) 認定テスト

受講料 30,000円

食生活の改善指導に関する専門知識および技術を有するものと認められ、保健指導の実施者(医師・保健師・管理栄養士)が作成した特定保健指導支援計画に基づき、食生活改善支援および運動支援を実施することができる。また、2018年から特定健診の質問票に咀嚼に関する項目が追加されたことにより、口腔の健康と全身の健康との関係について適切な支援方法を習得する。
歯科衛生士として、口腔環境に配慮した食生活改善指導および運動支援を行うための専門的知識および技術を身につける。

	研修項目	研修内容
1	健康づくり施策概論	1 社会環境の変化と健康課題 2 健康づくり施策 3 生活習慣病とその予防
2	生活指導およびメンタルヘルスケア	1 生活指導と健康に影響する生活環境要因 2 個人の健康課題への対処行動(保健行動) 3 ストレスとその関連疾患およびストレスの気づきへの援助 4 個別・集団の接近技法 5 ライフステージ・健康レベル別健康課題と生活指導
3	栄養指導	1 栄養・食生活の基礎知識および今日的課題と対策 2 食行動変容と栄養教育 食生活改善指導者の役割 3 ライフステージ、ライフスタイル別栄養教育
4	健康教育	1 健康教育の理念と方法 2 健康生活への指導プログラムの基礎知識と方法 3 メタボリックシンドロームに対する健康教育 禁煙支援プログラムの基礎と実践 4 メタボリックシンドロームと口腔保健
5	運動の基礎科学	運動と健康のかかわり
6	研究討議	意見交換 メタボリックシンドローム関連

摂食嚥下リハビリテーションコース

日 程 9月1日(金)～11月4日(土) オンデマンド配信
11月3日(金・祝) 集合型研修
11月5日(日) 認定テスト

受講料 35,000円

摂食嚥下障害を有する対象者に、歯科衛生士として適切で水準の高い摂食嚥下リハビリテーションを計画的、科学的に実践するために、リスク管理を含む全人的な観点から、問題解決能力と臨床的技能、臨床的態度を備えているか確認する。日本摂食嚥下リハビリテーション学会の協力により実施される。

	研修項目	研修内容
1	リハビリテーション総論	1 リハビリテーション医学とは 2 運動学習とは 3 摂食嚥下の運動学
2	摂食嚥下障害者への口腔管理の制度の理解	1 摂食機能障害者に関する制度の理解 2 医療保険、介護保険制度と口腔管理の実践

3	摂食嚥下機能のメカニズム(解剖)	1 口腔の構造 2 咽頭の構造 3 喉頭の構造 4 鼻腔の構造 5 摂食嚥下に関与する筋
4	摂食嚥下機能のメカニズム(生理)	1 摂食運動 2 咀嚼から嚥下への過程 3 嚥下運動の過程 4 嚥下運動の誘発 5 嚥下と呼吸のかかわり 6 嚥下運動に関連する器官における反射
5	咬合および咀嚼機能の管理と評価	1 咬合と咀嚼運動 2 咀嚼運動の解剖・生理 3 咀嚼機能の低下の要因 4 咀嚼・嚥下機能と咬合支持の関係性 5 咀嚼の機能低下による全身への影響
6	栄養管理	1 栄養ケアマネジメント 2 栄養摂取方法・補助栄養法 3 食事形態 4 嚥下調整食とは 5 栄養サポートチーム(NST)の概念
7	リスクマネジメント・全身管理	1 全身状態の把握と対応 2 バイタルサインのチェック
8	リスクマネジメント・呼吸管理と肺理学	1 呼吸器の解剖と生理 2 アセスメント方法 3 呼吸法 4 呼吸筋ストレッチ 5 徒手呼吸助法 6 体位ドレーナージ 7 気道管理(気管カニューレなど)と外科処置
9	リスクマネジメント・経鼻吸引	1 経鼻吸引 2 演習
10	病態別摂食嚥下障害(小児の摂食嚥下障害)	1 小児の口腔形態 2 正常発達と口腔機能の獲得 3 小児の摂食嚥下障害
11	病態別摂食嚥下障害(頭頸部がん等の摂食嚥下障害)	1 頭頸部外科手術 2 頭頸部がんの放射線治療後の摂食嚥下障害の病態 3 歯科的補綴装置
12	病態別摂食嚥下障害(中途障害の摂食嚥下障害)	1 脳血管障害 2 高次脳機能障害 3 認知症 4 神経・筋系疾患 5 サルコペニア
13	摂食嚥下の評価	1 フィジカルアセスメント 2 スクリーニング手法 3 頸部聴診法 4 嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査
14	食事外部観察評価	1 維持期における摂食嚥下機能低下の原因とリスクおよびその対応 2 摂食時の外部観察評価 3 その外部観察評価における問題点の抽出、分析およびその対応 4 演習
15	摂食嚥下訓練	1 摂食嚥下障害に対する訓練計画立案、食指導 2 各病態に対する訓練法とその選択 3 演習

16	歯科衛生ケア プロセス(歯科 衛生過程)	1 歯科衛生の視点とは 2 歯科衛生ケアプロセス(歯科衛生過程)の概要 3 演習 4 フィードバックと模範解答
----	----------------------------	--

在宅療養指導・口腔機能管理コース

日 程	9月1日(金)～10月14日(土)	オンデマンド配信
	10月8日(日)、9日(月・祝)	集合型研修
	10月15日(日)	認定テスト

受講料 40,000円

口腔機能管理を必要としているより多くの在宅療養者に対応することが求められてきている。さらに、昨今は医療機器の知識も必要になってきている。医療機器は我々が触ることはないものの、訪問時にエラーが表示されていた場合在宅医や訪問看護師等に連絡するにしても知識は必要である。これらをふまえて、本プログラムは在宅療養の支援に必要な口腔機能管理・技術を習得できるよう組まれたものである。

	研修項目	研修内容
1	医療と介護の連携	医療と介護の連携について
2	在宅医療の 現状	1 在宅医療を取り巻く環境 2 医療と介護 3 医療と口腔機能
3	在宅医療に 関わる 全身疾患と 口腔機能	1 病態把握(脳血管障害、パーキンソン病とその関連疾患、がん、認知症、うつ、代表的な先天性疾患) 2 リスク評価の重要性 3 全身疾患と検査値との関連 4 薬剤の効果と影響
4	多職種連携に ついて	1 多職種連携の実例 2 在宅療養者の環境把握 3 多職種からみた口腔機能 4 家族支援とは
5	口腔健康管理 の実例	1 口腔衛生(口腔の解剖学的・生理学的基礎) 2 口腔機能(咀嚼と食塊形成)
6	栄養管理・ 栄養支援	1 栄養評価 2 在宅療養者の口腔機能と栄養支援
7	終末期への 対応	1 看取りの考え方 2 歯科衛生士の役割(家族支援含む)
8	在宅医療に 関わる機器の 取り扱い	1 吸引器 2 呼吸器 3 他の医療機器 など
9	口腔機能管理 と実践例の 紹介	1 ミールラウンド 2 施設・居宅における支援等 3 看取りの支援
10	症例検討についてのディスカッション	
11	在宅支援と 歯科衛生士 介入	1 グループワーク(2症例) 2 状況設定 3 問題点の抽出(KJ法) 4 介入法の検討

糖尿病予防指導コース

日 程	9月11日(月)～11月18日(土)	オンデマンド配信
	9月10日(日)、11月12日(日)	ライブ配信
	11月19日(日)	認定テスト

受講料 35,000円

糖尿病予防の口腔保健指導および管理にかかる専門的な知識・技能を習得し、地域社会に貢献できる医学的、歯学的な知識と口腔保健学的技能を習得する。徳島大学歯学部との協力により実施。

	研修内容
1	オリエンテーション 1 アイスブレイク 2 糖尿病とその予防で学習したいこと(グループワーク)
2	ペリオドンタル・メディスン
3	糖尿病の基礎知識
4	糖尿病臨床の実例
5	国民健康の疫学
6	糖尿病と歯周病の関連性
7	学校保健と糖尿病予防
8	地域歯科医療における糖尿病予防 1 多職種連携における糖尿病予防
9	糖尿病予防の指導と管理 1 糖尿病予防の栄養指導と管理 2 糖尿病予防の運動指導と管理 3 糖尿病予防の口腔保健指導と管理
10	歯科衛生士による保健指導 1 歯科衛生士による口腔保健指導(1) 2 歯科衛生士による口腔保健指導(2)
11	糖尿病予防の指導と管理 1 糖尿病療養の保健指導と管理 2 糖尿病療養の口腔保健指導と管理
12	糖尿病療養管理の視点を予防に役立てる 1 カンバセーションマップ 2 療養指導カードシステム
13	成人歯科健康診査「生活歯援プログラム」
14	シナリオに対する口腔保健指導プラン作成(グループワーク)
15	教育講演

医科歯科連携・口腔機能管理コース

日 程	前期 7月1日(土)～7月29日(土)	オンデマンド配信
	7月30日(日)	ライブ配信
	後期 7月31日(月)、8月7日(月)	
	8月21日(月)、8月28日(月)	
	東京歯科大学市川総合病院で見学・実習、認定テスト	
	※後期は4回に分け、各班5～6名ずつ実施	

受講料 55,000円

医科歯科連携のもと、医科疾患患者の口腔機能管理を実践するために必要な知識、技術を習得する。東京歯科大学に委託実施。

	研修内容
1	がん患者の周術期管理 ～外科の立場から～
2	病院における口腔機能管理に必要な基本的知識
3	脳卒中患者の口腔機能管理
4	周術期口腔機能管理の制度(保険点数)
5	緩和ケア ～認定看護師の立場から～
6	化学療法と有害事象 ～薬剤師の立場から～
7	放射線療法と有害事象
8	臨床研究の進め方
9	グループワーク(症例検討)
10	周術期口腔機能管理 ～歯科衛生士の立場から～
11	東京歯科大学市川総合病院 見学説明
12	歯科・口腔外科外来での周術期口腔機能管理見学

	研修内容
13	口腔がんセンターでの周術期口腔機能管理見学
14	栄養サポートチーム(NST)回診見学
15	病棟での口腔管理見学
16	シミュレータを用いた吸引実習
17	シミュレータを用いた呼吸音聴診実習
18	シミュレータを用いた挿管患者における口腔衛生管理

歯科医療安全コース

日 程 8月5日(土)～9月3日(日) オンデマンド配信
8月26日(土)、27日(日) ライブ配信
8月27日(日) 認定テスト

受講料 35,000円

医療連携、多職種連携に対応し歯科医療機関における組織的な医療安全管理体制を確立するため、高度で総合的な医療安全、感染対策の実践および指導技術の習得を有する歯科衛生士を養成する。広島大学歯学部にて委託実施。

	研修内容
1	感染予防対策総論
2	歯科医療における標準予防策の具体的方法
3	歯科医療器具の洗浄、消毒、滅菌の総論
4	病院、歯科診療所での感染予防対策の実践
5	歯科医療の環境整備・医療廃棄物の取扱い
6	院内感染対策で重要な微生物

7	標準感染予防策の実践 1 講義を視聴しながら、(ディスポーザブルエプロン、マスク、ゴーグル、手袋)を準備して、各自で演習 2 歯科衛生士倫理綱領 郵送された資料を精読 3 自己チェック 郵送された自己チェックを実施
8	COVID-19の基礎知識と感染予防対策について
9	医療安全対策総論
10	医薬品・医療機器の安全管理方法
11	周術期口腔ケア、訪問診療の医療安全対策
12	口腔外科手術時の医療安全対策
13	歯科衛生士が起こしやすいインシデントの対応予防策
14	レジリエンス・エンジニアリングと医療安全
15	医療情報、個人情報の管理と実際
16	歯科衛生士のリスクマネジメントプロセス
17	歯科で起こりやすい患者急変時の対応と予防策
18	臨床現場における医療安全(感染含)対策ワークショップ 1 ワークショップについて 2 項目番号18の課題説明 3 アイスブレイク 4 グループ討論、成果作成 5 発表、全体討議、フィードバック
19	感染防止対策に関するワークショップ 1 テーマ別のオーデット作成 2 各グループからの発表 3 フィードバック
20	事例から学ぶ医療安全対策ワークショップ 1 実際の事例について対応策・予防策を討論 2 各グループからの発表 3 フィードバック

日本歯科衛生学会 第18回学術大会 参加登録のご案内

日本歯科衛生学会第18回学術大会は2023年9月16日(土)～18日(月・祝)の会場開催、終了後のオンデマンド配信を組み合わせたハイブリッド開催となります。参加登録は、インターネット登録のみとなり、登録期間は、会場参加とWeb参加の場合で異なります。

登録期間

① 会場参加：2023年7月3日(月)10時～9月15日(金)17時

※会場参加は事前登録のみとなり、当日会場での参加登録はできません。必ず登録期間内にお申し込みください。
参加登録をすると、Web参加も追加費用なく視聴可能となります。

② Web参加：2023年10月上旬開始予定です。

8月発行の学会雑誌Vol.18 No.1、大会ホームページでご案内します。

※Web配信終了日は10月31日に決定いたしました。配信終了日まで登録可能です。

参加費 会員 7,000円 会員外 12,000円 ※別途システム手数料がかかります。

【登録方法】 日本歯科衛生学会第18回学術大会ホームページ内の「参加登録ページ」からお手続きください。
クレジットカード払いまたはコンビニ払いがご利用いただけます。 <https://jsdhm.jdha.or.jp/18th/>

【注意事項】

- 2023年度の会費が未納の方は、会員としての取り扱いはできませんのでご注意ください。
- 登録後の変更、キャンセルは一切お受けできません。納入された参加費は理由を問わず返金いたしません。
- 発表者、参加予定の方は【公式】日本歯科衛生学会Twitter(@jsdh_official)のフォローをお願いいたします。

【その他】詳細については、日本歯科衛生学会雑誌Vol.18 No.1(8月発行)および大会ホームページをご参照ください。

問い合わせ先

日本歯科衛生学会事務局 E-mail: gakkai@jdha.or.jp



※パソコン、スマートフォンから24時間登録可能です。

「令和5年度歯科衛生士復職支援・離職防止等研修指導者養成研修事業「研修指導者・臨床実地指導者等講習会」」について

今年度もオンライン研修で開催します。詳細は本会ウェブサイトおよびInstagramにてご確認ください。

令和4年度 認定歯科衛生士の紹介

日本歯科衛生士会認定歯科衛生士制度規則に基づき、認定分野別に生活習慣病予防(特定保健指導・食生活改善指導担当者研修)56名、摂食嚥下リハビリテーション37名、在宅療養指導・口腔機能管理46名、糖尿病予防指導52名、医科歯科連携・口腔機能管理20名、歯科医療安全管理36名、障害者歯科22名、老年歯科8名、地域歯科保健1名、口腔保健管理1名、う蝕予防管理53名、研修指導者・臨床実地指導者34名、合わせて、366名の方々を認定歯科衛生士名簿に登録し、認定証を交付いたしました。各分野において認定歯科衛生士として活躍されることを期待します。

【認定分野A】生活習慣病予防(特定保健指導 - 食生活改善指導担当者研修)

〈北海道〉 角田 裕子 荒川 久悦 佐藤 昌美 〈青森県〉 木村 和子 石塚 育子 道尻 紋佳	〈秋田県〉 小武海 明美 〈山形県〉 村越 友子 〈埼玉県〉 北浦 涼子 〈千葉県〉 金山 みづほ 野村 摩耶	〈東京都〉 須田 正江 成田 祐貴子 山本 裕子 福壽 裕紀 〈神奈川県〉 鈴木 清美 〈新潟県〉 西藤 美穂 江邊 真奈美	宮川 友里恵 〈富山県〉 藤田 奈央 〈岐阜県〉 伊左治 わかな 〈静岡県〉 鈴木 清美 西藤 美穂	〈愛知県〉 川田 佐代子 〈三重県〉 高松 いずみ 〈滋賀県〉 土屋 奈美 相原 直子	〈大阪府〉 山田 恵里 桑村 尚美 福池 久恵 樋口 敦子 山本 雅子 瀬川 梓 福岡 智子 森下 紅華	〈兵庫県〉 岩倉 佳恵 〈奈良県〉 乾 美保 〈和歌山県〉 林 糸津香 玉置 浩美 〈岡山県〉 重田 雅奈江	〈広島県〉 森田 紀子 仁井谷 善恵 〈香川県〉 山本 かおり 〈愛媛県〉 川上 三紀 〈福岡県〉 高橋 由希子 荒巻 裕子 住田 安恵	〈佐賀県〉 陣内 美穂子 八木 浩子 小部 素子 大川内 佳奈美 古藤 美貴子 〈長崎県〉 岩下 ひろ子 高橋 由希子 三ノ宮 美紀 新名 美由樹	藤田 峰子 〈沖縄県〉 安仁屋 みなみ 平田 奈々子
--	---	---	---	---	--	--	--	---	-------------------------------------

【認定分野A】摂食嚥下リハビリテーション

〈北海道〉 渡邊 恵里 加藤 明美 〈青森県〉 原田 千明	日野口 尚子 〈山形県〉 佐藤 美香 〈茨城県〉 中村 郁子	〈東京都〉 三浦 綾子 野島 矩子 田口 知実 小林 文子	矢島 秀子 井上 百世 〈神奈川県〉 田頭 絹代	〈山梨県〉 佐藤 美佐子 阿部 裕子 〈福井県〉 館 陽子 川端 登代美	〈静岡県〉 渡邊 陽子 柴山 奈都子 〈愛知県〉 金原 理佳 向井 紗耶香 浅野 江里子	赤平 愛華 〈三重県〉 久保田 加寿美 〈滋賀県〉 角田 幸栄子 谷地 柚香	〈大阪府〉 奥田 理芳 〈兵庫県〉 高田 香織 〈広島県〉 尾川 直子	〈山口県〉 草野 戸美子 〈高知県〉 植田 智香 〈福岡県〉 川上 恵美 坂梨 裕子	〈大分県〉 出納 美智代 〈鹿児島県〉 寺野 くらら 〈沖縄県〉 伊禮 美由紀 吉田 綾乃
---	--	---	-----------------------------------	---	--	---	--	--	---

【認定分野A】在宅療養指導・口腔機能管理

〈北海道〉 太田 蘭子 伊藤 朋江 江戸 美奈子 澁谷 友恵 永橋 茜 櫛田 珠美	〈福島県〉 八島 真奈美 荒木 友美 〈茨城県〉 今西 正佐子 〈群馬県〉 笠原 好美	赤松 恭子 星野 美里 川田 律子 鈴木 祥子 加藤 理恵子 〈長野県〉 柏原 夏奈	〈東京都〉 鳴海 広美 〈神奈川県〉 鈴木 祥子 加藤 理恵子 〈長野県〉 柏原 夏奈	〈新潟県〉 伊藤 和佳子 〈富山県〉 原田 志穂 〈岐阜県〉 廣瀬 絵里佳 〈静岡県〉 宗田 理華	〈愛知県〉 山田 陽子 都筑 亜矢子 〈大阪府〉 小南 史 柳川 朋子 〈兵庫県〉 占部 美由 本房 ゆかり	玉置 綾 〈奈良県〉 青木 恭江 武田 好美 〈岡山県〉 永田 晴江 〈広島県〉 市川 稔奈子 大下 雅枝	築尾 慈子 〈徳島県〉 丸崎 愛 篠原 浩子 藤田 茜 〈香川県〉 眞鍋 美穂 〈高知県〉 小松 由樹	〈福岡県〉 秋吉 知美 嶋田 由希 神野 幸恵 〈長崎県〉 久家 朋子 〈熊本県〉 園田 清子	
---	---	--	---	--	--	---	---	--	--

【認定分野A】糖尿病予防指導

〈北海道〉 大津 久子 佐々木 朋子 古川 和代 足立 早希子 中山 ひかり	〈青森県〉 竹内 祐子 〈宮城県〉 中澤 正絵 〈栃木県〉 兵藤 淳子	〈東京都〉 吉田 和恵 武藤 久子 江藤 倫子 加藤 理子 丸山 千春 工藤 美佑季	〈神奈川県〉 鈴木 恵 菊池 奈穂子 〈長野県〉 米沢 ひとみ 高山 きよ江 矢田 麻衣子	〈石川県〉 塚本 暁子 〈福井県〉 大門 智子 武嶋 香菜 〈愛知県〉 水野 淳子 岩倉 由希	野村 幸乃 〈三重県〉 奥田 英未 前川 和子 村田 恵 〈大阪府〉 上牧 左右子 山野 視香子 尾形 祐己	下井戸 恵 〈兵庫県〉 肥塚 美奈子 堂田 あかり 登利 早苗 〈岡山県〉 藤本 幸恵 〈広島県〉 黒田 景子	栗原 里美 〈香川県〉 管 真奈美 上村 香南子 山下 亜矢子 前田 陽子 〈愛媛県〉 篠原 こそえ	〈福岡県〉 平川 裕子 中山 朋美 吉田 涼子 本田 麻樹 〈佐賀県〉 山口 いづみ 〈熊本県〉 永江 千晃	〈大分県〉 衛藤 恵美 川村 佳美 〈鹿児島県〉 山元 美礼
---	--	--	---	--	--	---	---	--	--

【認定分野A】医科歯科連携・口腔機能管理

〈北海道〉 北山 まなみ 〈岩手県〉 菅原 沙織 〈宮城県〉 小松 美保 〈群馬県〉 佐田 美子 〈東京都〉 細入 枝里	岩崎 知美 〈新潟県〉 伊藤 鮎美 金池 千香子 〈静岡県〉 増田 彩乃 〈愛知県〉 白川 由佳 〈滋賀県〉 奥村 裕子	〈大阪府〉 横田 忍 中西 優実 倉本 裕子 〈和歌山県〉 津村 瑞希 〈香川県〉 久保 直美 〈愛媛県〉 三谷 幸子	〈福岡県〉 山岸 真由美 原田 有泉 甲斐 彩香
---	---	--	-----------------------------------

【認定分野A】歯科医療安全管理

〈北海道〉 川平 景子 〈宮城県〉 堀込 ゆかり 小野 ゆかり 山田 桂子 〈埼玉県〉 大堀 千鶴 佐藤 康子	〈千葉県〉 蓮池 祥江 杉本 明日美 滝 あかね 矢野 千明 〈神奈川県〉 栗原 行子 北山 仁美 村上 由岐子 澤田 のぶ	〈新潟県〉 山城 知子 〈福井県〉 高崎 裕美 笹木 明美 中林 育実 玉井 文子 野田 めぐみ	道下 千秋 榎井 悦子 外山 裕貴 福永 昌代 〈兵庫県〉 赤崎 直美 池田 恵理 森 加奈	〈岡山県〉 小野 加寿未 〈広島県〉 石田 真南 中岡 美由紀 山根 次美 矢野 加奈子 〈徳島県〉 橋本 千奈美 宮川 章代 〈愛媛県〉 長井 礼子	〈福岡県〉 林 光子
---	---	---	---	--	---------------

【認定分野B】障害者歯科

〈茨城県〉 鈴木 伶菜 〈東京都〉 堀越 咲葵 〈石川県〉 畑 早苗 島田 真菜美 〈静岡県〉 勝又 たまき 〈愛知県〉 飯田 景子 足立 恭子	太田 那菜 和田 鮎美 春日 美智子 〈滋賀県〉 上西 加奈子 〈京都府〉 永谷 美紗希 〈大阪府〉 向山 和美 吉岡 佳子	〈兵庫県〉 高瀬 ひかり 伊藤 美咲 〈広島県〉 大石 瑞希 保田 紗夜 〈香川県〉 楠木 奈央 〈福岡県〉 梶原 友里 吉良 利沙	〈鹿児島県〉 藤崎 郁恵
---	---	--	-----------------

【認定分野B】老年歯科

〈東京都〉 中田 悠 〈静岡県〉 佐藤 美紀 寺田 泉 橋詰 桃代	〈愛知県〉 田中 紘子 〈大阪府〉 石川 由美 〈福岡県〉 川端 千花	〈沖縄県〉 赤嶺 あきな
--	--	-----------------

【認定分野B】地域歯科保健

〈東京都〉 伊藤 奏

【認定分野B】口腔保健管理

〈徳島県〉 福島 みどり

【認定分野B】う蝕予防管理

〈北海道〉 塗田 泉	奥 美恵子 角田 朋美	花木 こころ 霜鳥 友里江	田中 里果 〈新潟県〉 田巻 菜穂子
〈岩手県〉 金野 柚佳子	〈東京都〉 下田 哲子	〈神奈川県〉 佐々木 小百合	〈岐阜県〉 久世 恵里子
〈埼玉県〉 古川 敏子	松田 梢 鳴海 広美	宮本 詩織	小島 綾子

高松 磨由子 野村 玲奈	鈴木 夏奈 田中 由貴	西山 沙織 山田 里加	森 みのり 〈岡山県〉 渡辺 朱理	小山 明日香 〈徳島県〉 藤原 奈津美	塩土 真由 高橋 綾華
森 真由 長屋 優里菜	〈愛知県〉 佐々木 るり香	渡邊 貴子 〈兵庫県〉 一井 瑞希	藤代 万由 西山 由夏	瀬山 真莉子 田中 弥生	
市川 清香 柳沢 梨乃	〈大阪府〉 垣東 佑佳	北川 瞳 田中 古都	難波 みゆき 小畑 幸恵	〈福岡県〉 田原 文香	
梅田 麻衣	松本 瑞希		原田 麻依子	鶴田 智香	

【認定分野C】研修指導者・臨床実地指導者

〈福島県〉 佐久間 真紗美	〈埼玉県〉 竹谷 沙織	川名 美智子 牧 松美	〈岐阜県〉 山越 陽子
〈栃木県〉 両角 恵美	〈東京都〉 鳴海 広美	〈神奈川県〉 栗原 行子	〈愛知県〉 金森 いづみ

原田 未来 榎原 裕子	〈滋賀県〉 溝井 敬子	秋山 遥 吉川 美優	大森 かずみ 尾形 祐己	〈奈良県〉 柳川 京子	〈愛媛県〉 川上 三紀
加知 美穂子 渡邊 理沙	〈大阪府〉 村井 亜希子	中村 紀子 松山 優花	〈兵庫県〉 高見 美佳	谷 裕枝 〈徳島県〉 高石 和子	〈佐賀県〉 古藤 美貴子
〈三重県〉 前田 尚子	古賀 恵 板並 悠香	岩城 一栄 赤松 明日香	破魔 幸枝	上田 甲奈	

第26回感染症予防歯科衛生士講習会開催のお知らせ

1 目 的

歯科衛生士を対象に、最新の感染症事情、院内感染の予防管理対策や歯科診療所における医療安全対策に関する講習を行うことにより、患者が安心して受けられる歯科保健医療の提供を図ることを目的とする。

2 実施の主体

日本歯科医師会・日本歯科衛生士会

3 協 力

岩手県歯科衛生士会、宮崎県歯科衛生士会

4 対 象

業務に従事している歯科衛生士

5 開催日時・研修方法・定員

	A日程	B日程
開催日時	令和5年7月30日(日) 13時～16時50分	令和5年9月3日(日) 13時～16時50分
研修方法	Web研修(ライブ配信)	Web研修(7月30日の録画映像を配信)
担当 歯科衛生士会	岩手県歯科衛生士会	宮崎県歯科衛生士会
日 程	開 会 講 演 (60分×3名、講演間休憩あり) 1. 新型コロナの始末とこれから 住友商事診療所 所長 一般社団法人感染防止教育センター 理事 森澤 雄司先生 2. 院内の感染予防管理 大阪大学歯学部附属病院 口腔総合診療部 副部長・准教授 野崎 剛徳先生 3. できることから始める院内感染予防 －医療安全とチームの視点から－ 赤坂見附磯谷歯科 院長 磯谷 一宏先生 閉 会	
定 員	250名	250名

6 受講料

無料

7 申込期間・申込方法

(1) 申込期間

令和5年6月12日(月)～7月12日(水)

定員になり次第締め切ります。

(2) 申込方法

下記URLより申し込みください。

<https://forms.gle/RpbvfusgBRiWmks77>

スマートフォン用二次元コード▶



申し込みにあたっての留意点

- 申し込み後は日本歯科衛生士会よりメールを返信いたしますので、ドメイン「jdha.or.jp」からのメールを受信できるようあらかじめ設定をお願いいたします。
- 申し込み後1週間を経過してもメールの返信がない場合は、再度連絡してください。

8 研修単位

- 日本歯科衛生士会 第5次生涯研修制度 専門研修
3単位
(基本研修 特定コース「歯科診療所等における医療安全管理対策」)
- 日本歯科衛生士会 第5次生涯研修制度 認定更新生涯研修
3単位

9 修了証書の交付

講習を修了した者に対し、修了証書を交付します。

10 注意事項

- 受講申し込み後、何らかの事情で欠席する場合は、順次他の者に受講の機会を与えますので、その旨を必ず日本歯科衛生士会までメールでご連絡ください。
- 遅刻や早退の場合、研修単位の付与ならびに修了証書交付はございません。

11 問い合わせ先

日本歯科衛生士会(担当 小林)

E-Mail kensyu@jdha.or.jp

F A X 03-3209-8023

著作権の基礎 —「引用」の手引き—



スマートフォンの登場やデジタル技術の劇的な変化により、私たちの情報発信方法は大きく変わりました。今では、誰もが発信者となり、ワンクリックで全世界に情報を送信できるようになりました。しかし、その利便性とともには様々な危険性や問題点が指摘されています。今回は身近で重要な問題である「著作権」について考えてみましょう。

そもそも著作物とは何でしょう？

著作権法第2条第1項第1号には、著作物とは、「思想又は感情を創作的に表現したものであつて、文芸、学術、美術又は音楽の範囲に属するもの」と書かれていますが、分かりやすく言うと「小説、音楽、絵画、写真、映画、漫画、コンピュータプログラム等、人間の知的・精神的活動によって創作されたもの」¹⁾を指します。従って、私たちが報告書やスライド、論文等を作成する際によく用いられる以下のものは、著作物に該当するといえます(例：書籍・雑誌・スライド・SNS等の本文・図・表・イラスト・写真)。

あなたが創作して書いたSNS上のチャットはあなたの著作物ですが、創作的に表現されたものではないもの(例：治療の手順・方法、実験結果等のデータやそれを表現したグラフ、数学の命題)は、原則として著作物ではありません。

著作権とは何でしょう？

著作権とは、「自分の著作物を勝手に他人に利用されない権利」¹⁾であり、他人に「無断で〇〇されない権利」²⁾のことです。〇〇には、公表／改変／複製／公衆送信^{*1}／送信可能化^{*2}／頒布等が当てはまります。

*1 公衆送信：放送、有線放送、インターネットによる送信等

*2 送信可能化：インターネットに接続されたサーバへ情報をアップロードし、閲覧・ダウンロードできる状態にすること

私たちが文章等を書く際にはどうしたらよいでしょう？

他者の著作物を自身の著作物の一部として使用する場合は、原則として、著作権者から使用の許諾を得る必要があります。しかし例外的に、私的使用(個人や家庭など)のための複製、図書館や教育機関での使用、引用等は、著作権者からの使用の許諾を得なくても使用できます。

今回はその中から、**著作権法第32条「引用」**について、概要を説明します。

引用条件を以下に示します。

1 引用元が公表された著作物であること

- 出版された本、教科書、刊行物、論文、Webサイトなど
- ✕ 院長が院内の症例検討会で使用した症例写真
→公表されていない場合は無断では利用できません。

2 「公正な慣行に合致」し、「引用の目的上正当な範囲内」であること

→自説の裏付け等として必要最小限であること

- 新聞の社説の一文のみ引用
- ✕ 社説全体を使用

→自説が主、引用が従であること

- 自説の文章(8割)の中に様々な文献から数行ずつ引用
- ✕ 「はじめに」のみ自説で全体の8割に他者著作物を使用

→自説と引用部分の区分が明瞭であること

- 引用部分を「」や四角で囲む

3 出所が明示されていること

引用した場所に出典(本や論文のタイトル・著者名、WebサイトのURL等)を明示したり、引用番号のみ付して、最後に参考文献リストで明示したりする方法が一般的です。

「引用」とよく似た言葉に「転載」がありますが、前記引用の条件を満たさない「転載」は、無断で行うと著作権法違反になるので注意してください。

引用する際は、以下の点に注意しましょう

- ◆ 必ず出典を明示すること
- ◆ 引用する文章や図を改変(一部削除、要約、加筆、言い換え等)しないこと(著作者人格権の侵害になります)

Web上の無料イラストを使用する際の注意

- ◆ 無料Webサイト上のイラストなどを自身の著作物の一部として使用する場合は、「利用規約等」をよく読んで使用しましょう。商用利用が認められていない場合は、「書籍等、有償の出版物」に使用することはできません。

最後に

著作権に関しては難しいイメージもありますが、今回説明した著作権法第32条の「引用」は私たちにとても身近なものです。ルールに則って、適切に利用していくことが大切です。私たちひとりひとりが著作権に対する意識を高めていきましょう。

【豆知識】

本稿の冒頭部分に著作権法第2条第1項第1号の条文「思想又は感情を創作的に表現したものであつて、文芸、学術、美術又は音楽の範囲に属するもの」が記載されています。この「」内、つまり法律の条文には著作権は及ばないことが規定されています(著作権法第13条)。

また、条文中の表記「あつて」ですが、これは誤植ではありません。法律の条文中で「つ」を「つ」と表記することになったのは、平成に入ってからです(昭和63年12月5日付け最高裁秘書第500号秘書課長通知)。

参考：

1) 文化庁 著作権：https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/ 著作権Q&A～教えてぶんちゃん～(バナー)

2) 岡本 薫「誰でも分かる著作権」財団法人 全日本社会教育連合会

(公益社団法人 日本歯科衛生士会 広報委員会 須永 昌代)

全国病院歯科衛生士連絡協議会 オンライン開催

令和5年1月28日(土)都道府県会病院担当者・運営50名の参加により令和4年度全国病院歯科衛生士連絡協議会が開催された。「歯科衛生士の『キャリア』を考える～歯科衛生士の実践の能力向上・キャリアアップ形成に必要な一定指針とは」病院委員会 大家朋子氏、「クリニカルリーダーとは～多職種との比較(目的・背景)～」病院委員会 石井美和氏の基調講演の後、グループワークが行われ、病院委員会 池上由美子氏より都立駒込病院のケース紹介とまとめ・助言があり閉会となった。

令和5年度 定時代議員会の開催について

代 議 員 各 位

公益社団法人日本歯科衛生士会
会 長 吉 田 直 美

令和5年度定時代議員会を下記のとおり開催いたします。

記

- 1.日 時 令和5年6月11日(日) 13時30分～16時
- 2.場 所 ステーションコンファレンス東京501
東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー5階
- 3.議 題
 - 第1号議案 理事及び監事の選任に関する件
 - 第2号議案 令和4年度事業報告(案)に関する件
 - 第3号議案 令和4年度決算報告(案)に関する件
監査報告
 - 第4号議案 役員の報酬等に関する規程の改正に関する件
 - 第5号議案 会長候補者の選定に関する件
- 4.報告事項
 - ① 令和5年度事業計画について
 - ② 令和5年度収支予算について

理事及び監事候補者

1.理事候補者

定数15名以上20名以内(候補者20名)

(五十音順)

候 補 者	所 属 会	ブ ロ ッ ク	推 薦 代 表 者
秋 山 恭 子	埼 玉 県		新 井 恵
石 川 奈 保 美	神 奈 川 県		打 矢 純 子
岡 田 昌 子	千 葉 県		十 川 裕 子
久 保 山 裕 子	福 岡 県		天 本 和 子
河 野 章 江	東 京 都		安 達 奈 穂 子
島 谷 和 恵	東 京 都		須 田 正 江
須 山 弘 子	東 京 都		藤 山 美 里
長 優 子	東 京 都		高 澤 み どり
根 岸 麻 理	東 京 都		上 原 理 恵
松 本 厚 枝	広 島 県		三 好 早 苗
武 藤 智 美	北 海 道		末 永 智 美
村 西 加 寿 美	滋 賀 県		土 屋 奈 美
山 田 小 枝 子	岐 阜 県		高 阪 利 美
吉 田 直 美	東 京 都		吉 田 幸 恵
長 岐 祐 子	秋 田 県	北 海 道・東 北	南 坂 貴 子
石 川 博 美	群 馬 県	関 東 信 越	長 谷 川 万 里
渡 邊 理 沙	愛 知 県	東 海 北 陸	金 森 い づ み
吉 福 美 香	奈 良 県	近 畿	米 田 衣 代
松 浦 あ ず さ	愛 媛 県	中 国 四 国	川 上 三 紀
下 池 光	宮 崎 県	九 州	近 藤 泰 子

2.監事候補者

定数2名 候補者2名

候 補 者	所 属 会	備 考	推 薦 代 表 者
渡 邊 洋 子	東 京 都		高 橋 千 鶴
今 村 敬	公 認 会 計 士	清 明 監 査 法 人	理 事 会 推 薦

Linking JDHA to IFDH

『International Journal of Dental Hygiene』

本会では、国際歯科衛生士連盟が発行する学術誌「International Journal of Dental Hygiene(IJDH)」を購読しています。会員の皆様にはIJDHが無料公開されているウェブサイトから直接アクセスできるように、最新号の二次元コードを公開いたします。

有料の部分については、IJDHを本会の事務所で閲覧することができます。国際協力委員会までお申込みください。

(FAX 03-3209-8023)



国際歯科衛生誌

2023年2月 第21巻1号

本号は原著論文16報、総説10報で構成されています。世界各国で用いられている様々な歯磨剤や含嗽薬の抗炎症効果や抗プラーク形成効果、歯質への摩耗効果についてなど、ヒト臨床試験や実験研究で検討されています。9報はオープンアクセスで、無料で全文を閲覧することができます。最新の知見を得るとともに客観的思考を養う良い機会となるかと思われます。

(国際協力委員会 委員 藤原 奈津美)



理事会報告

令和4年度第6回理事会が令和5年3月12日(日)に開催された。審議事項および報告事項は次のとおりである。

審議事項

- (1) 令和5年度各委員会の活動計画(案)について
- (2) 役員の報酬等に関する規程の改正について
- (3) 令和4年度特定資産取得・改良資金の積立について
- (4) 令和5年度事業計画(案)について
- (5) 令和5年度収支予算(案)について
- (6) 令和5年度資金調達及び設備投資の見込みについて
- (7) 令和5年度定時代議員会開催(案)について
- (8) 監事候補者(公認会計士)の推薦について
- (9) パート職員就業規則の改正について
- (10) 認定歯科衛生士委員会委員の委嘱について
- (11) 地域歯科衛生活動助成事業審査委員会委員の委嘱について
- (12) 日本歯科衛生学会規則及び日本歯科衛生学会運営細則の改正について
- (13) 新入会員の承認について
- (14) 都道府県歯科衛生士の災害歯科保健業務調整(ロジスティクス)歯科衛生士及び災害歯科保健コーディネーター歯科衛生士の推薦について
- (15) 認定歯科衛生士の英語表記について
- (16) 日本歯科衛生学会企画第二委員会委員の委嘱について
- (17) 「歯科衛生士養成所指導ガイドライン」の見直しに関する要望書について
- (18) その他

報告事項

- (1) 会務報告について
 - ① 業務執行理事等の職務執行報告について
 - ② 常務理事会の報告について
 - ③ 常任委員会等の報告について
- (2) 「専門歯科衛生士制度検討プロジェクト」第4回委員会について
- (3) 監査実施報告について
- (4) 令和3年度「歯科衛生士の研修指導者・臨床実地指導者等講習会」修了者アンケートの調査結果報告について
- (5) 職員の採用について
- (6) 事務局職員業務分担(令和5年度)について
- (7) 「歯周病予防に関する実証事業に係る調査研究等一式」第3回検討委員会について
- (8) 後援名義使用及び生涯研修制度の研修単位認定について
- (9) 第16回災害歯科保健医療連絡協議会報告について
- (10) 2022年度第4回公益社団法人日本障害者歯科学会災害対策委員会報告について
- (11) 令和4年度第2回広島大学歯科衛生士教育研修センター運営協議会について
- (12) 特定費用準備資金の取り崩しについて
- (13) その他